

令和2年度第2回伊勢市市民公益活動促進委員会 議事録

日 時：令和3年2月5日（金）午後3時10分～4時30分

場 所：伊勢市役所 本館4-1会議室

出席委員：

委員長 池山 敦 氏（皇学館大学 教育開発センター准教授）

副委員長 藤岡 喜美子 氏（公益社団法人 日本サードセクター経営者協会
東海支部長）

秋山 則子 氏（NPO法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長）

川北 輝 氏（津市市民活動センター センター長
NPO法人津市NPOサポートセンター 理事長）

阿竹 美幸（伊勢市環境生活部 市民交流課 主幹兼地域自治
推進係長）

【いせ市民活動センター指定管理者】

特定非営利活動法人 いせコンビニネット

西川 恒夫（いせ市民活動センター長）

浦田 宗昭（いせ市民活動センター企画部長）

【事務局】

辻 浩利（環境生活部 参事）

木村 扶美夫（市民交流課 課長）

上村 静香（市民交流課 市民交流係長）

鈴木 健太（市民交流課 市民交流係）

1. 令和2年度前半期のいせ市民活動センターの管理運営状況について

・別紙資料に基づき指定管理者から説明。

【質疑応答】

※（委）＝委員（指）＝指定管理者（市）＝伊勢市

（委）2点あり、1点目に、相談事業の中にZoom関係の相談があるが、その成果はどのようなものがあったか。

2点目に、市民活動フェスティバルを新しい形で行う予定とあるが、どのような内容を考えているのか、説明をお願いしたい。

(指) 1点目は、大変好評をいただいている。実際に使用をしている団体もある状況。
2点目は、3密など新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた中で、市内の環境美化活動を登録団体へ呼びかけて実施するという事を考えている。

(委) 利用者数が減少したことに伴い、貸館収益も減っていると思うが、運営に支障は出ているか。

(指) 収入は減っているが、例年長期利用をしてもらっている確定申告の会場等は、今年度も使用するという事から、大幅な減少にはなっていない。また、市からも補てんをもらっており、対応できている状況となっている。

また、コロナ対策として三重県の事業等による支援もあることから、何とか支障なく運営ができています。

(市) 新型コロナウイルス感染症に関する補てんに関しては、令和元年度と令和2年度に分けて対応を行っている。

令和元年度は、影響の大きかった3月分を対象とし、過去3ヵ年平均と当該年度の収入を比較し、差額を補てんした。

令和2年度については、4月・5月の緊急事態宣言下に伴い、一般利用者への貸館停止を市から依頼していた期間と、6月から現在までの期間とで、補てんの割合を分けて考えている。最終的に、4月から3月までの実績を確認した上で、対応を行う予定である。但し、現在のところ、新型コロナウイルス関係の国庫補助金の申請会場として北館のホールが長期的に利用される等、過去とは別の用途での利用もあったため、大幅な収入減少はない。

(委) 各団体についても、制約がある中で活動を継続していると思われるが、団体の様子など可能な範囲で教えてください。

(指) 福祉関連等、事業を行っている団体については影響が大きく、小さい事業所等は活動が止まってしまっていると聞いている。

一方、自らの目標や考えで活動を行っている団体の状況は把握していない。

(委) 新たに何かをするような動きはあるか。

(指) 今まで行ってきた活動ができなくなったため、何とか継続したいという状況がみられる。Zoomについては、全国規模の団体の支部活動をしているところなどは、本部の会議がZoomで実施されるようになったので、やらざるを得なくて始めるところが多い。それ以外の団体は、「Zoomをやってみよう」という相談も受け研修もしているが、実際に始められたかどうかは疑問である。

Zoom使用とまではいかないが、ホームページの必要性が認識されるなどの変化があった。

2. 令和3年度いせ市民活動センター事業計画（案）について

・別紙資料に基づき指定管理者から説明。

【質疑応答】

(委) 現状の新型コロナウイルス感染症の状況を見る限り、交流事業の内、上半期にやる事業については、実施が難しいと思われるが、何か腹案があるのか。

(指) 実施は難しいと思いながらも、団体の「やりたい」という気持ちを考え、始めから行えないという計画にはしなかった。

腹案としては、Zoom講習、マスクやアルコールの配布等、必要に応じ実施したいと考えている。

(委) 新型コロナウイルスが感染拡大してから2年目ということもあるので、昨年と同じことをするだけでいいのかは一度検討しておくといよい。先ほどの相談事業にZoomの相談が増えてきているとあったが、コロナ禍だからこそのやり方というのも考えていくべきではないか。

(指) 考えていく。

(委) まちづくり協議会との連携を挙げてもらっているが、活発的に活動をしている地区とそうではない地区というのはリサーチしているか。

(指) まちづくり協議会との連携については、基本的には市民交流課と相談をしながら、進めていかなければいけないと考えているが、現在の想定としては、まず初めにまちづくり協議会からの相談を受ける体制を構築することが第一歩だと考えている。

(委) 活動が活発なところについては、自ら活動を行っていくと思うが、活動に消極的な団体をどのようにして活発化させるかが大事であると思っているため、市民交流課と連携をしていきながら活動に消極的な団体の活性化をお願いしたい。

(委) 4点あるので、2点ずつ質問する。

1点目は、ITVの収録内容はどのようなものか。

2点目は、相談事業の内、コロナ禍における特別支援事業となるが、新しい視点のものは何か考えているか。

(指) 1点目については、年12回ある内の、半分はいせ市民活動センターからの広報的な内容となっており、残り半分はいせ市民活動フェスティバルや団体のイベントの紹介の他、団体の活動報告等を行っている。

2点目については、具体的なものは現在考えていない。

(委) ITVはよい企画だと思うので、他からゲストを招待する等、更なる工夫をするとよいと思う。

3点目に、講習事業についてももう少し工夫があってもよいと思う。

4点目に、ネットワーク事業の来年度のターゲットはどこか考えているか。

(指) ネットワーク事業の件だが、三重県ネットワークセンターと既に連携しているが、コロナ下においてオンラインでのやりとりが増え、地理的な制約がなくなったと感じている。この機会に全国のセンターと緩やかに繋がっていきたい。

(委) 先ほど話のあった講習事業について、コロナ禍によりオンラインでの講演が増えてきたことにより、今までお願いできなかった有名な方にも、お願いができたという話もあるため、工夫をしてもらえればと思う。

3. その他事項

・事務局より報告事項の説明。

① いせ市民活動センター移転に関する経過について

② 20年後の地域人材について

以上